

pgrViPタブレットによる 培地への植物成長調節物質 (PGR、植物ホルモン) 添加が 無菌培養ペチュニア葉に及ぼす影響

(3ページ、写真のみ、具体データはありません)

eViP培地MSゲランガム1.4シヨ糖20に写真表記容量分のpgrViPタブレットを添加し、98℃熱湯で溶解して培地作成。
50穴セルトレイに嵌め込んだNo.1規格軟質ポリエチレン袋(0.03mm厚 70×100mm)に20mLづつ分注。2018年5月22日～6月10日にかけて各培地を作成後、使用まで20L高密度ポリエチレン袋内で屋内貯蔵。

露地屋外で1ヶ月以上、無農薬で栽培のペチュニア葉(品種:タキイ種苗‘F1ロンド バーガンディスター’)を採取し、sirViPG10倍液に1～20分浸漬後に6月19日置床し、70%の有効塩素を含む次亜塩素酸カルシウム粒を0.71g/Lで溶解した水道水(有効塩素濃度約500mg/L)を畜圧式園芸用農薬散布機で散布後、熱シール。
午前0時から30分光中断した、冷暖房のない直射日光の差さない屋内の明るい窓際で培養。

7月5日撮影(16日後)

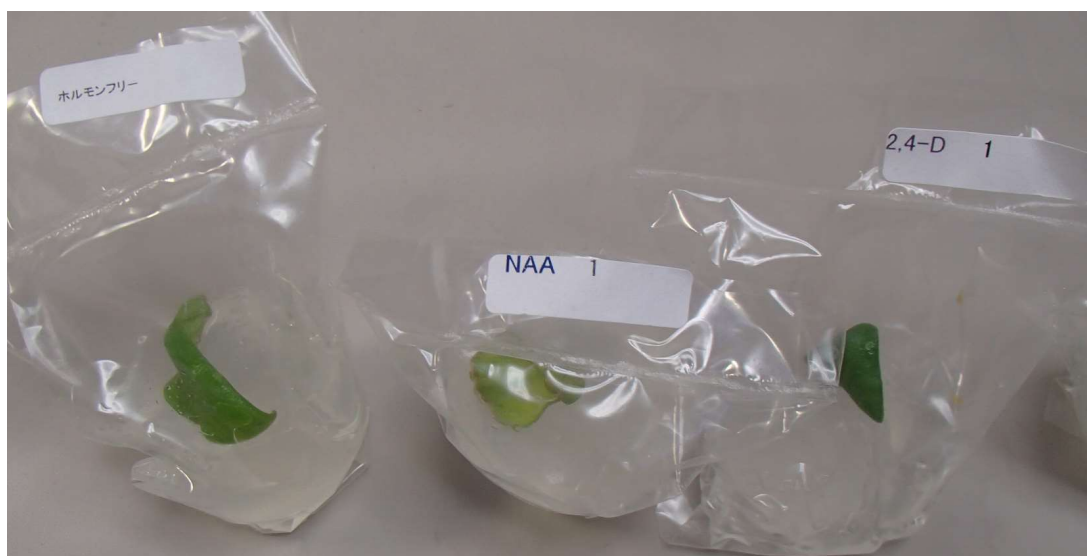


IBA+BAは濃度:比率にかかわらず、切り口付近から少数個体を再分化



NAA+BAは濃度:比率にかかわらず、葉縁部付近から多数個体を再分化?

7月5日撮影(16日後)



Kinetin+IBA、Kinetin+NAA（濃度は2mg/L&0.5mg、0.5mg/L&2mg、2mg/L&2mg）
ならびに、
ホルモンフリー、BA、Kinetin、NAA、IBA、2,4-D 単独、では、
2週間程度では目だった変化が認められない（一部写真は省略）。

7月12日撮影(23日後)



IBA+BAは濃度、比率にかかわらず、再分化個体が順調に成長



NAA+BAは濃度、比率にかかわらず、葉縁部付近の多数個体はカルス化ないし多芽体化し、
個体としては成長してこない

BA 2ppm、,もしくは Kinetin 2ppm のみ添加培地では一部が個体再分化 (1 / 5 容器以下)

Kinetin+IBA、Kinetin+NAA (濃度は2mg/L&0.5mg、0.5mg/L&2mg、2mg/L&2mg)

ならびに、

ホルモンフリー、NAA、IBA、2,4-D 単独、では、

3週間程度ではまだ、ほとんどで目だった変化が認められない。

オーキシンのみ添加培地置床の葉の一部は黄変 (写真は省略)。

- ・ 2022年10月10日追補・改訂
- ・ このPDFの著作権は**ヴィトロプラント**に属しています。
- ・ 配布自由、ただし、無断改変を禁じます。

Copyright © 2018 Vitroplants All Rights Reserved

■ヴィトロプラント情報

住所：〒558-0032 大阪府大阪市住吉区遠里小野6丁目3-8

電話：06-6606-8099

FAX：06-6606-8098

メールアドレス

クレーム・ご批判など : claim@vitroplantslab.com

お問い合わせ・ご提案など : inquiry@vitroplantslab.com

<https://www.vitroplantslab.com/>